

Title	為替予約について
Sub Title	
Author	井上修一(Inoue, Shiyuuichi) 村井俊雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1981
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001981-0123

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	井上修一	主査	村井俊雄	教授
	(東亜燃料株式会社)	副査	太田康信	助教授
所属ゼミナール	太田康信研		関谷章	助教授

為替予約について

輸出入に関連する企業は、為替相場の変動により、その収益に大きな影響を受ける。なかでも、売上原価の90%以上を原油代金が占め、しかも、その原油代金をほとんどすべてドル建てで支払っている石油会社の場合、為替相場の変動が収益に及ぼす影響は非常に大きい。

為替差損益は、仕入れ時の相場の変動による仕入差損益とドル・マーザンスの決済に伴うマーザンス差損益に分類できる。本論文では、このうち、マーザンス差損益に限って論ずることとする。

為替差損益に対するヘッジングの手法には、いろいろなものがあるが、そのうち、最も、直接的なものは為替予約である。そして、為替予約を行なうということになれば、通常、決済時の為替相場の見通しを立てた上で、予約比率を決めるという手続きをとることになる。

しかし、将来の為替相場を予想することは非常に困難であるため、予約比率を決定することも簡単ではない。本論文では、主として、オプション・モデルを応用して予約比率を決定するメカニズムを明らかにするとともに、その実証分析を行なった。また、参考として、回帰分析による方法も行なってみた。

適切な為替予約とは、為替相場の変動による賃金コストを低からしめる予約である。こうした観点からして、オプション・モデルを応用した方法は有意義な結果を生み出している。また、回帰分析による方法も、検証したデータの数は少ないものの、望ましい結果が出ている。